

# 佐用郡北部に蝶を採集して

岩村 巖 • 中谷 貴 寿

On some butterflys from northernmost of  
Sayou-gun (Hyogo, Japan)

by

Iwao Iwamura and Takatoshi Nakatani

県下の蝶相は南東部にあつては比較的良好に調査されているが、特に西部県境地帯にはその交通不便、更に附近に同好者の少ない事等が原因して、広大な地域が殆んど未調査のまま残されているが、神戸大学姫路分校生物研究会の採鳥会が昨1959年瑠璃寺で催されたのを機会に我々二名は附近で採集を行い、若干の新知見を得たので、ここに報告し、今後の調査の布石としたい。

コース：6月13日、姫新線佐用駅—(バス)—上石井—水根—海内—瑠璃寺

14日、瑠璃寺—海内—水根—青木—上石井

上石井、青木の辺りには相当樹高のある *Quercus* の林があり、ここには或る種のシジミチョウ (*Thecla*) 類を産するが、傾斜が急で採集は困難をきわめ、不十分な調査しか行い得なかつたが、下記のように注目すべきものを得ることができ、今後に期待を持たせる地である。しかし植物相は単調で、蝶相も豊かではなく、他にはキマダラヒカゲ、ヒメキマダラセセリ等普通種しかない。

水根—海内間では *Quercus* の背丈がいずれも低く、ミズイロオナガシジミを得たのみで、他の *Zephyrus* (= *Thecla*) はまず産しないものと思われた。しかし道傍にはメスグロヒヨウモンが多く、またテングチョウも多数見られた他、最近いろいろ取沙汰されている *Pieris* sp. (エソスジグロチョウ本州亜種といわれているもの) の1♂を得ている。

海内—瑠璃寺間は蝶相が極めて単調で、僅かウラギンヒヨウモンが路上を飛び交うに過ぎない。しかしこの間瑠璃寺近くにある峠(約500m)の尾根附近には *Quercus* 林があり、*Zephyrus* の発生可能性がある。

以下注目すべき種二・三について述べる。

ウスイロヒヨウモンモドキ

*Melitaea diamina regama* FRUHSTORFER

佐用郡南光町三河村 (380m)

1959-6-13 1♂ Col. & poss. T. N

佐用郡佐用町水根 (300m)

1959-6-14 1♀ Col. & poss. T. N

海外では中国北部、朝鮮等東アジア北部に分布する本種は国内では中国山脈特産種として、その特異な分布で知られている。兵庫県では従来養父郡・朝来郡・神崎郡

・宍粟郡等の主として 500m以上の高原から記録されてこころが1昨年佐用郡久崎の標高僅か 200m程度の所かかった。とら 1♀が記録され、我々を驚かせたものである。更に今回筆者等は上記二例を記録、従来の標高の草原にのみ分布するものと思われていた概念は全く失れ、低山地帯にも広く分布しているらしい事が推察される。本種の多産地はいずれも、その食草オミナエシ、オトコエシ (カノコソウ科) の繁茂した草原であるが、今回記録した場所は林間の空地に過ぎないような所で、こんな環境ならばどこにでもあるので、今後は播但線以西の各地から新産地が見つかるであろう。出現期は低地帯にあつては6月中旬と思われ、山地でも6月下旬で7月に入ればは既に汚損する。

ウスイロオナガシジミ *Antgillus butleri* FENTON

佐用郡佐用町青木 (280m)

1959-6-14 1♂ 1♀ Col. & phss. T.N, 1♀ I. I

県下では佐用郡久崎町に比較的多産する他は宍粟及び養父郡氷ノ山から知られるにすぎず、氷ノ山に至つては20余年前1頭が得られたのみで以後今日に至るまで採集されていない。今回記録した青木は久崎と比べればカシワ(ナラガシワ?)の数が極めて少なく、当然の結果として、それを食樹としている本種を含む下記 *Zephyrts* の一族の数は少ない。

ヒロオビミドリシジミ

*Favonius latifasciatus* SHIROZU et HAYASHI

佐用郡佐用町青木 (280m)

1959-6-14 2♂♂ Col. & poss. T. N & I. I

最近新種として発表されたもので、日本では西日本の低山地に限り極めて局地的に分布することが知られている。県下でも、佐用町の一部に多産地がある他は、川西市竿部から小泉一志氏が記録した1♂が知られるのみである。本種の裏面白帯は著しく個体変異があるらしく、今回得たものも、中谷採集のものは外縁の薄褐色の陰影が完全に消失し、従つて白帯は銀白色の地色にとけこんで極めて巾広く感じられる。岩村採集のものは陰影がくつきりと現われている。まだ発生初期と思われる、うまく最盛期をつかんで調査すれば、かなり産するのではないかと思われる。

ウラジロミドリシジミ

*Favonius spherinus* STAUDINGER

佐用郡南光町三河村 (450m)

1959-6-14 1♀ Col. & poss. T. N

(以下60ページへ)

(36ページより続く)

佐用郡佐用町青木 (280m)

1959-6-14 1♂1♀ Col. & Poss. I. I. T. N

本種の分布は県下に於ては前述ヒロオビミドリシジミのそれとはほぼ一致し、従来川西市東谷、佐用郡久崎町から知られていたものであるが、これは両種が食草を同じくする為であろう。また従来の産地はいずれも標高はおよそ 200m以下の所であり、南光町のは最北で最高所からの記録となる。これは本種が宍粟郡等西部県境地帯に広く分布することを示唆するものであろう。

以上この佐用町青木辺りの蝶相が、直線距離にして僅

か20km と距たぬ久崎町のそれと類似していて不思議はないが、これらウスイロオナガシジミ、ヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ等低山性 *Zephyrus* で代表される“久崎型蝶相”がはたしてどの辺りまで北に及んでいるのか、又 氷ノ山辺の山地性 *Zephyrus* で代表されるものがどの辺まで南下しているのか、この問題の解明は極めて興味深いものがある。いずれにしても宍粟郡の県境附近の山地の開拓が興味を引くわけである。また久崎に多産するウラナミジヤノメが今回全くみられなかつたのはいささか意外の感がしてならない。